

伊藤計劃『ハーモニー』作品分析（仮題）

1、先学期の研究内容

先学期は「日英の比喩表現翻訳において、どのような差異が見受けられるか～村上春樹作品を例にして～」というテーマで、村上春樹の短編『象の消滅』について翻訳分析を行った。当初の仮説である「比喩表現は言語によって異なる」というものが証明できず、また別に研究したいテーマが見つかったため、研究の方向性を変えることにした。

2、今学期の研究テーマ

『ハーモニー』（伊藤計劃著）という SF 小説を研究題材とする。この作品は、小説として新しい手法 etml（後述）が取り入れられており、作品全体が何重ものメタファーとなっている。日米両方で SF の賞を受賞し、どのようにして人々に受け入れられてきたのかを分析する。

3、仮説

4、研究内容・方法

- ・伊藤計劃『ハーモニー』について

『ハーモニー』は 21 世紀後半、福祉厚生社会の世界を舞台にした SF 小説である。この作品の大きな特徴として、独自の言語 etml タグが使われている。html を模した言語で、作品の要所要所に使われている etml は作品全体のメタファーでもあり、最後のオチとも密接にかかわっている。

（例）本文より引用

```
<?Emotion-in-Text Markup Language:version=1.2:encoding=EMO-59378?>
<!DOCTYPE etml PUBLIC : -//WENC//DTD ETML 1.2 transitional//EN>
<etml:lang=ja>
<body>
```

いまから語るのは、

```
<declaration:calculation>
<pls:敗残者の物語>
<pls:脱走者の物語>
<eql:つまりわたし>
```

</declaration>

(引用ここまで)

本文すべてではないが、etml タグはこのように埋め込まれている。感情を表すため<regret>や<anger>など、実際のプログラミング言語では存在しないタグもある。

また、作者である伊藤計劃は、この本執筆時に病床の淵にあったが、『ハーモニー』内部では「病気が根絶された世界」を否定している。そこにはどのようなメッセージが込められているのだろうか、その点においても研究をしたいと考えている。

『ハーモニー』は日本では、第30回日本SF大賞を受賞、ベストSF2009第一位、第40回星雲賞日本長編部門を受賞している。そしてアメリカではフィリップ・K・ディック記念賞を受賞している。

・研究方法

作品に使われている etml タグがどのような働き方をしているかを分析する。この作品独自の言語であるため、言語の構造、作品に及ぼす影響、etml がもしもなかった場合に印象はどう変わるか、などを研究する。また、作者：伊藤計劃が執筆当時に置かれていた状況、作品についてのインタビューなどを参考にし、作品にどのような影響を与えたかを考察する。

受賞している賞から分かるように「SF」として評価されているため、SF界でどう受け入れられたかを書評・論評などから分析する。

先行研究を探したが、全くと言っていいほど見当たなかったため、批評家による作品・作家論評や、作者ブログを参考に研究を行っていく。

長期的な視野で考えると、『ハーモニー』の編集者にインタビューを行い、文庫本とハードカバーで表紙が違うのはなぜか、などを伺いたい。また etml に限らず、作品で使われている表現やテーマを深く掘り下げていきたい。必要であれば英訳がどうなっているのかを比較する。

5、参考文献

伊藤計劃『ハーモニー』早川書房 2010年

飯田一史『ポストヒューマニティーズ：伊藤計劃以後のSF』南雲堂